

①地域包括支援センター事業の状況について

令和元年4月～9月の地域包括支援センター担当者会議より

①総合相談支援業務（相談内容）

・退院後のサービス相談や、介護保険申請中で要支援か要介護か微妙な方の相談が多く、ケアマネジャーと一緒に動いた。

・入院先や受診先で地域包括支援センターを案内された相談が多かった。

・要介護認定の代行申請の相談、病院からの相談が多い月だった。

・退院支援の相談は、がん末期の方の相談が多かった。

相談事例

・民間住宅に県外から転居してきた方について、息子による転入手続きの際に介護保険の手続きを行っておらず、介護保険の手続きについて代行した。

・認知症の方でエアコンをつけずに体調不良になった方や精神的に不安定となり、頻回に電話をかけてくる方等の対応を行った。

・隣の家への迷惑行為がある方について、民生委員より話があり対応している。本人は、隣人に1.8億円の着物を盗まれたと話し、夜中2～3時に叫び声をあげており、隣人が攻撃対象となっている。班長、民生委員、包括で地域ケア個別会議を開催し、本人の行動はノートに記載しておくことと、本人を刺激しないことについて共有した。

・ケアマネジャーからの相談があり、本人は要介護3、娘が介護しているが精神的に波があり「母を殺しそう」と言ったり、お互いに罵倒し合う時があるが、落ち着くとケロツとしている。ショートステイを提案するが、母親と離れることに不安がある娘がキャンセルする。今後も継続支援を行っていく。

・妻から「室内が便まみれ」との連絡があり訪問すると、アルコール依存症の夫が便失禁した跡があった。介護保険を申請しショートステイを利用するが、下血し大腸がんで入院中。

・近所の方から自治会に連絡があり、発覚した。5月2日頃から夜になっても電気がつかなかった。台所の出窓から除いたが確認ができず、レスキューがベランダから窓を割り中に入ると、布団の上で亡くなっていた。

②権利擁護業務

- ・虐待対応は職員2名で実施している。

相談事例

・両親が認知症の娘からの相談で、娘の父が娘の母に対しての虐待とのことで訪問をした。訪問をすると父は変わった様子はなく、異変も特段なかった。身内だけの環境ではないためである可能性もあるので、今後も関わっていく。

・本人、娘、孫の3人世帯で、娘が就労しておらず、本人の年金を金銭搾取している疑いがあり、本人の施設利用料を滞納。施設から退所を求められたため、娘が包括に在宅のケアマネジャーを紹介してほしいと、娘から相談があった。自立相談支援センターとコミュニティーソーシャルワーカーとで会議を実施。世帯分離を行い、家計相談を勧めていくことになった。

・70歳代、独居、要介護2妻とは離婚裁判中。知人の女性がいろいろ決めている。成年後見制度で市長申し立て中。

・発達障害のある息子と本人について、息子が怒鳴り声をあげる事がある。民生委員と支援している。

・認知症の夫とその妻、義妹の3人家族世帯。夫はこだわりが強くデイサービスの利用に至らず。義妹は、夜中に夫に対し怒鳴り声を出し、夫は「痛い」と言う声が近所に聞こえているが、ヘルパー等は痣や傷等確認できない。介入のタイミングを計っている。

③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

相談事例

・夫婦で介護保険の認定を受けているが、制度を理解していないため、ケアマネジャーを挟んで対応しているケースがある。

・ケアマネジャー情報交換会にて障害や介護保険の制度の講義を実施。

・ケアマネジャー情報交換会はDVD「人生会議」を見て意見交換した。

・ケアマネジャーから包括に連絡があったケース。本人はデイサービスに通えているが、息子の態度から虐待に至らないかが心配である為、支援者で見守っている。

・認知症初期集中支援チームで関わっていた方は、介護保険の適用になりケアマネジャーの介入に繋ぐことができた。

④ 地域ケア会議

・地域ケア個別会議は、本人は不在だったが夫が参加した。今回は2回目の会議で、作業療法士にも参加してもらった。

・地域ケア個別会議を実施。対象者は会議として2回目の開催。成年後見人がついていますが、サービス利用料が在宅にいながら施設入所と同額程度、利用しているのにも関わらず、血糖コントロールがうまくいかず、在宅生活が困難になっていると思われる方について開催。

・地域ケア個別会議を開催。介護を必要としないとの条件で高齢者本人を引き取った息子家族が、本人が介護が必要となり介護放棄が疑われたため、ケアマネジャーから相談があり開催。

・民生委員でボランティア活動をしている方の個別会議を開き、今まで民生委員の仲間、ボランティアの仲間がそれぞれ支えていたが、両者の共有はなかった。今回、個別会議で認知症についての話しをしてもらい、本人を支えているそれぞれの仲間が同じ方向を向けるようになった。

・地域個別ケア会議を開催。要介護5で補助人が選任されている方について、地域の方とどのように対応していくか共有した。

・各地域の担当圏域ケア会議において、6月と7月は移送サービスについて関心が高かった。その為、全体会ではデマンド交通について話しをした。

・担当圏域ケア会議実施し40名参加があった。社会資源について講義後、グループワークを行った。生活支援サービスやシステムを作りたいといった意見があった。今後、実施回数を年1回から増やしていきたい。

・本庁地区第2地区地域会議に参加した。

・地域支援として地域会議でミニ講座を行った。

その他

・予防給付業務について、委託していた居宅介護支援事業所スタッフの退職に伴い、23名が一気に包括に戻ってきたが、他事業所に委託することができた。

・委託のケアマネジャーから、引継ぎが不十分な事例があった。

・大手の居宅介護支援事業所が月末で閉鎖するため、ケアマネジメントを包括で引き上げたり、他の居宅介護支援事業所に依頼する等対応した。

地域包括支援センター担当者会議について

(目的)

各地域包括支援センターの活動の情報交換、各圏域における状況や課題の把握及び検討等を行う。

(会議日時、回数)

開催回数：月1回、第1金曜日 午前中

(内容)

- ・各地域包括支援センターからの活動報告
- ・生活支援コーディネーター、在宅医療拠点センターから活動報告
- ・市からの情報提供、連絡事項 等

(参加者)

- ・地域包括支援センター職員
- ・生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）
- ・在宅医療拠点センター職員
- ・地域包括ケア推進課職員

(主催) 地域包括ケア推進課 地域包括担当